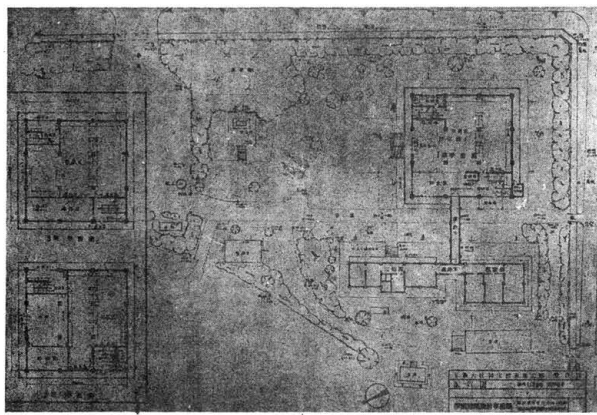
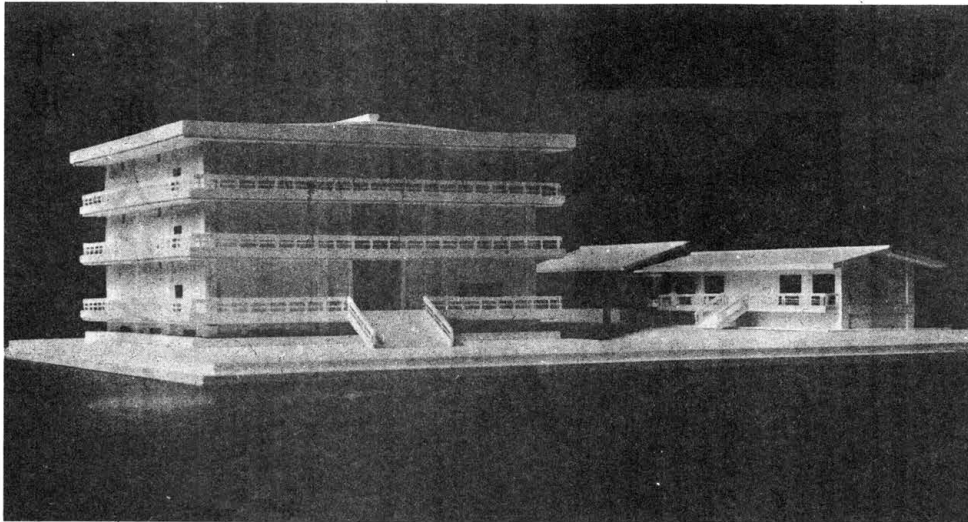


海の正倉院 宗像大社神宝館建設決る

— 昭和の大御造営の最後を飾る —



総事業費七億円

— 沖ノ島祭祀遺品十万余点を中心に 一堂に展示・管理 —

当社では、かねてより新しい文化財収容施設の建設を計画してあったが、愈々具体的実現の運びとなり、宗像大社神宝館として建設工事に着手、来る二十七日境内に於て地鎮祭並びに起工式が執り行われることになった。

当社の現存神宝は、第一次、第二次沖ノ島発掘出土品を中心とし、社伝の神宝、更なる宗像郡内に散在する文化財を一括して収める共同収蔵庫として、昭和十九年に建設されたものである。工費三千九百十二万円、鉄筋コンクリート造

別格のほかに、伊弉諾神皇より九十五丁の建物で、当時神社界ではユニークな建物として注目され、多数の参拝者の来訪を以て、地方における文化財保護、紹介の役割を果し、今日に至るまで、

しかしながら、宝物館建設時に比べ、その後在途に当社所蔵の文化財の数は飛躍的に増大した。即ち昭和十四年から四十六年にかけて第三次沖ノ島発掘調査が行われ、その結果、五万数千点のぼる沖津祭祀遺品が出土した。これらの出土品は第二次調査時のもっとも多き色のない豪華なものである。その中には唐三彩、奈良三彩、金銅製頭冠といった超絶的優品が含まれ、その多くは本年六月の重要文化財に指定され、更に近い将来の中か右の遺品は新国室に指定される見通しである。この第三次調査分の追加により、沖津祭祀遺品は総数十万点にのぼり、国宝を数に数えるに足るものがある。

更に、重文指定数は殆ど他例をみない規模のものとなった。

更に当社では昭和四十四年に御本殿の修復を中心とする大御造営が完成し、同年十一月、御社の御差遣を賜り盛大なる遷座大祭が斎行されたが、この祭儀は

防壁の面からも火災報知器その他最新の施設が備えられ、災害に對し万全を期している。

展示室は二階に岡部防壁石、石造、木造、大足、早利、神等々の社伝の文化財及び神宮御下神宝、遷座祭祀遺品、二階には沖ノ島出土の沖津祭祀神宝、

鏡、勾玉、刀剣、香葉、金指環、唐三彩、奈良三彩、頭冠、滑石製品等、代表的優品を一堂に展示し、また沖ノ島発掘、発掘状況の写真パネルも配置して、出来得るだけ観客の理解し易いよう配慮する。三階には約五百五十坪の文化財収蔵庫を設け、その他部分には宗像文書、一筆二切等類の文書類を展示する。

工事は十一月内着手、来る三月にはコンクリート工事完了、その後外装工事を、来秋十月頃完成、約一年半、建物完成期間を置いて昭和五十二年秋に落成開館予定である。

建設費七億円、うち、興費補助は三千三百万円、残金は当社及び一般献金でこれを負担する。

一 神宝館建設により、当社の文化財保存管理は理想的なものとなり、当社の歴史を物語る重要な資料が一堂に守られることになる。わけても沖ノ島発掘の沖津祭祀遺品は、海の正倉院の別格のこゝに、質量ともに群を抜く考古的宝であり、更に是が古事記、日本書紀等古代文獻記載の歴史を立証する有力な傍証資料として比類ない民族の宝である。わが国の古い歴史を見直し、民族の誇りを喚起せんとする気風

の興りつつある昨今、このたびの神宝館建設の意義は益々、関係者の喜もまた一入、その完成が待望されている。

去来神宝館建設に相俟つて周辺の高麗整備も行なわれ、施土は内山緑地建設株式社。

現階段には去る昭和五十二年新年歌会始めに三笠宮殿のお披露に、また御歌「沖の島歌」のしめがけに、千歳かみし神楽の岩たの歌謡が建立されているが、宮祭に神宝は新しい装いの中に移され、未水く後に受け継がれていくのである。



毎月十五日発行
所 大社 社会
社 宗像 像
福岡県宗像郡玄海町
福岡市中央区油小路北入(一丁目)
電話 0946 3111 代
定価 一年送料共 1000円

神具、装束
結城式場用品
九州店 福岡市博多区東区二丁目一丁目(一六三)
電話福岡(092) 511945 五六三
本社 京都市中京区油小路北入(一丁目)一丁目(一六三)
電話京都(075) 3111 三四一(六) 〇六番

株式会社 井筒

新へ建設される神宝館は約二千坪、三層建て、延面積約三万平米、約七百坪、現宝物庫東側約一万平米の敷地に建ち、宝物庫とは階下で連結する。設計者は宝物館と同じく東京在住の伊藤要太郎氏、施は清水建設株式会社が決定し、設計にあつては特文化財の保護保存に重点がおかれ、直射日光や湿度変化の外的影響を防ぐため窓は一切設けず、壁は二重構造により太陽熱を遮断する。また内外の湿度変化に応じて自動的作動する除湿ファンを壁面にとりつけ、特に沖ノ島出土品の展示ケースは完全密閉方式、収納神宝の種類に応じ、一定の湿度を保持し、防湿剤をセットする等の細心の工夫がなされている。更に防犯の面から表層にアラビカメラを設置し、常時監視を行い、異常の場合には直に警報が鳴り、対応し得るよう警備体制がとられてい

津屋崎 永島 昭子
教子の同窓会に来吾を荷期生かと思ひながら

福間 木梨よしの
絵の如き舞の種豊に旅人多
さ河童舞

武丸 原田まつ代
露おひし 桜木の大輪白牡丹の
時しにあまく映る

田熊 吉田 直志
霧雪山なみけは霧のさき
海たなみき星のことし

宮田 片山 一
庭芝の青い映えを中頃に種花
れり掲げを立てて

福岡 吉田 信夫
嵐風や屋根吹飛ばし柳柳り
ラスを御座に突き指す

戸田 田中ハツセ
かつらりうなじさがる目
女奮脚を伸し行き

田熊 今村 重刀
夕月の子守唄に聞き入りぬわ
責てを鈴音の音

箱崎 吉村 三郎
秋風に涙切ればは舞の舞
い啼き

原町 八波 五月
父の黒髪へへかみに字ひし
半ばにひきし弟

田久 小方 実
脳結解散せしめ、姉は昨日の
新聞に読んで

田島 吉武 武雄
台風は来れぬか白雲の難儀な
青田に羽

深田 中野 節子
驚然と履物並空間に妻茶の匂
遅れ来りぬ

福間 広渡一寿軒
ひとときのあはれは老の樂し
うばいて去りぬ歌の午後

田熊 丸九 一郎
風さびく草木の色も緑あせり
る秋風め来る

田熊 鷺津かつ代
通り雨さきてはかに濡れのみ
夏のなりのほかに花

福間 藤田 肇
小波立つ港内に影とおとし
こゝろを魚釣る

白鷺の降りて遊ば見し(り)
の道ゆへか何たのき

古賀 吉武 邦夫
亡き母のよちよちの水と
いたる花にちりちり立ちそ
る 名古屋 野崎 傳三

田島 楠 理
堰止め山も低水に数魚
の白雲降す

武丸 立石ろせ乃
乾き切る畑の土にさるる
透りゆく雨を見て

福間 宮本 勝弘
深き水もかきそり自家水
水の町に送りたきかな

武丸 原田 リノ
摩みしをみながらし舞
今は落し顔洗ひ

鐘崎 村田 四郎
荷揚る魚の山をりまき
分け入給ひひかる

福間 二宮 末子
敬老の目も雨思ひしに風
漁舟を残して

須恵 早川 フサ
亡き父の足跡に直る人妻
入れ熱を限りぬ

津屋崎 内田 久美
上宮の木立中に二人
早は涼湧る

福岡 林 まつえ
天体の圓変にや思ふ暮日美
器映さめ秋来る

宗像 中村 幸
ひとやかに来たてたる朝の
機にむかひ

津屋崎 谷口 孔子
土用まで夜明の影に舞
移つとき

池田 永富 謙
雲低く空をおはる星さ
びしき星の秋出

福岡 桜井 ツ子
水波がく船も物船にま
てり(り)の海に

宗像大社歌会詠草

毎月一日〇切 詠草到着順

宗像大社歌会 俳句作品集(二八)

福間 木梨よしの 残響に草の実熟れる露の隅

田島 吉武 雄雄 亡友の武勳語りし秋宵

藤沢 玄洋子 道主の遺の御幸や秋祭り

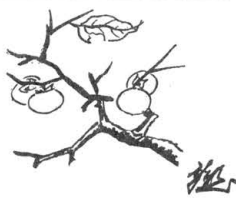
福間 広渡一春軒 いきぎと苗木なべり社日かな

名古屋 野崎 傳三 わが持ゆはかはら秋の風に葉る

田熊 力丸 一郎 秋めき板戸を直す日曜日

福岡 力丸 進 台風残して里の秋祭り

土穴 八尋 恒夫 明月神に供へた豆の豆

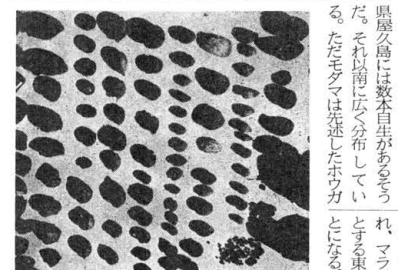


浜の寄物

南方果実・種子

いししいただし

ボウガンヒルギ(センダン科) いて多い。このボウガンヒルギ...



植物文明(ハハ) T.G.ベーカー 著、東京大学出版会...

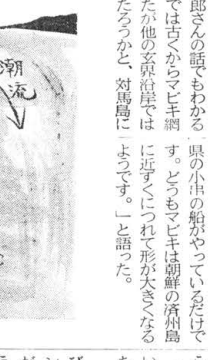
マビキは別名をイラと云う。この魚の獲れる時間が丁度...

鐘崎民俗誌 その八

マビキ網

うなものを作り、その中にゴ石をつめてラツナにくりつけ...

鐘崎マビキ網漁法



マビキは別名をイラと云う。この魚の獲れる時間が丁度...

十一月祭典・行事案内

- 奉納歌会 於宿舎 十一月十五日 月夜祭 午前十一時...

一年中行事

手紙(九月号) 九月号巻き 以後には一般によく行われた...

海洋民のロマンを求めて

宗像大社宝物館に於いて、十月九日(日)から十月十六日(日)まで...

宗像大社宝物館に於いて、十月九日(日)から十月十六日(日)まで...

特別展開催

宗像大社宝物館に於いて、十月九日(日)から十月十六日(日)まで...

宗像大社宝物館に於いて、十月九日(日)から十月十六日(日)まで...